

憲法記念日 私はこう思う

平和が いちばん

2015年5月3日 発行



<左上> 14・5・3 憲法記念日
リレートーク(交野市イズミヤ前)

<右上> 14・11・3 団結まつり
(大阪市扇町公園)

<左下> 14・11・6 市長の横暴許さない
(香里ヶ丘中央公園)

<右下> 15・2 新基地建設は許さない
(沖縄県辺野古)

憲法記念日に寄せて

松田 久子

今年には戦後 70 年の節目にあたる年だが、今ほど憲法が危機的な状況になっている時代はないのではないかと。日本はこの 70 年間、自衛隊が海外に出ていくことはあっても直接、戦争を行うことはなかった。しかし今、自衛隊が海外に出ていき戦争する軍隊へ変えられようとしている。先日、自宅のポストに「自衛官等募集」のパンフレットが放り込まれていた。おそらく息子が今年、大学 4 回生で就職活動の年齢にあたるため入っていたのではないかと考えている。自衛隊が海外に出て戦争をすることになれば、自衛隊に応募する人が減るのではないかと。しかし、学校教育の中で「日の丸」や「君が代」が教師にも子どもにも強制され、道徳教育が教科として評価の対象になり、教科書から侵略の加害者性が薄められていけば、自ら志願する若者が増えていくのではないかと。

今なら、まだ間に合う。戦後生まれが 70 才になろうとしている時代に、戦争を体験した方の声をもっともっと、私たちは子どもたちに伝えていかなければと改めて思う。

沖縄の希み

柳井 直躬

移せないもの アーサー・ビナード

(月刊絵手紙5月号より転載)

ぼくは 細かく読んでみた。

基地の移設計画案を。

そして致命的な欠陥が見つかった。

辺野古の海を埋め立てて

基地機能を移すというが

海のジュゴン機能を

どこに移す予定か

なにも書いていない。

海草の移設先も示されず

大切な藻場機能も珊瑚機能も

どこへ持っていくつもりなのか。

もし移せないものなら

計画を「移設」と呼ぶのは偽りだ。

かわりがいないのなら。

かけがえのないものなら。

琉球の人々が本土復帰運動を始めたのは、日本国憲法が適用される社会が欲しかったから。私達、日本国民は沖縄の人達の希みを決して裏切ってはならないと思う。今、琉球独立運動が現地では持ち上がっている。

憲法記念日に寄せて

則本 拓之

単行本：「日本人は人を殺しに行くのかー戦場からの集団的自衛権入門」から引用 伊勢崎賢治：著 朝日新聞出版 780円

著者は民間人で国連PKO幹部、政府特別代表として世界の紛争地で、現に敵対中の軍隊の武装解除に成功した。

憲法九条のおかげで、日本に非武装国であり中立であるという「美しい誤解」が武装解除説得成功につながった。

尖閣列島問題は、「主権は棚上げ、実効支配は日本」という日中両国の了解を民主党政権が破ったのが発端である。

重要事実を報道しないマスコミの責任もあって、日本は国全体が好戦的になりつつある。

自衛隊は海外派遣地でいつ戦闘に巻き込まれても不思議ではない。安倍内閣の集団的自衛権は非現実的である。

以上、私には得るところが多かったです。

私たちが問われている

黒田 薫

平和がいちばん！ 平和だからこそ私たち家族のささやかながら楽しい毎日の暮らしがあるのです。でも最近の安倍内閣の動きを見ているととっても怖い！ 集団的自衛権などと言って、アメリカと他国の戦争に首をつっ込んで行って殺し殺される……。そんな国になりかねません。

私たちは「先の戦争に何故反対しなかったの？」とお祖母ちゃんに尋ねました。でも今、私たちがそれを問われる世の中になっています。国際平和支援法ではなく戦争支援法です。一人ひとりが言いましょ。戦争に我が子も誰も行かさないと！

戦争は非人間的なもの

高山 順子

戦後70年憲法があればこそ日本の平和は守られてきました。でも、世界のあちこちで、紛争は絶え間なく起り、なんの罪もない子どもや女性たちが犠牲になっています。

今後戦争が起これば、ボタン一つ押すだけで、加害者は相手の顔も知らずに、多数の人々を殺害するものになる可能性があります。非人間的な戦争は人間の感情さえも奪いかねません。

そんなことに加担する改憲には絶対反対です。齢80を前にして、9歳の時の悲しさは未だに頭の奥底に鮮明に生きています。平和な世界の嫌いな人は、この世にい

戦後70年 憲法記念日に想う事

柳下 祥一

あの悲惨な太平洋戦争一敗戦から70年、例年以上に現「日本国憲法」の大切さを思うのは私だけではないだろう。

ところが現政権、安倍暴走内閣（別名アベ坊ちゃま政権）は現在、「積極的平和主義」の言葉に隠れて軍事国家を目指し、そして改憲するべく安保法制の検討に狂進している。日本の過去の誤った歴史を見詰めず、平和を希求する世界の大勢を無視してひたすら米国に追従し、再び我が国を「富国強兵」「忠君愛国」「八紘一宇」の世界へ導こうと、その道をひた走っている。

かつて言われた「武力では平和は作れない」「非武装中立と平和保障」などは決して死語ではない。むしろその輝きは増している。

日本のリベラル層、良識派のメンバーは、自民党を中心とする勢力の前に大手を広げてストップをかけよう！

その思いを「憲法記念日」に改めて決意したい。日本は「軍備なき国」で行こう！

民衆の力が試されている

手塚 隆寛

安倍内閣は、集団的自衛権行使を容認し、戦争が出来る国への道をまっしぐらに進んでいる。地球の裏側まで自衛隊を派遣し、戦争をしようとしている。

この、動きを進めるために批判を封じるため、マスコミへの支配介入を強めている。

さらに、教科書での偏狭な愛国心をあおる政府見解の強要。日の丸君が代の起立斉唱の強要、ヘイトスピーチに見られる排外主義の横行。まさに、歴史の誤りを再び繰り返そうとしている。まさに、戦争前夜の様相を示している。

沖縄では翁長県知事を誕生させ、辺野古への新基地建設強行を許さない全県民的な息の長い闘いが取り組まれている。枚方の美術館建設の見直しを求める闘いも8ヶ月を超えた。

戦争放棄、言論の自由、憲法の根幹を破壊しようとする策動を阻むのは民衆の力だ。あきらめず、声を上げ続け、安倍内閣を退陣させよう。

今 声を上げるとき

井上 由美

日本を平和主義の国から戦争する国へと変えようとする安倍政権を早く倒そう！
“いつでもどこでも戦争する国” アメリカと一緒に行動するのはあまりに危険。未来を生きていく子ども達を守ろう！戦争で利益を得るのは誰？沖縄県民へのなりふりかまわぬ政府の強硬姿勢を見てわかるのは国民の命を大切にしているのではないということ。大人は生活に追われて大変だけど今しっかり考えて声をあげないと子ども達に無責任。21世紀の人類の目標は、話し合いで問題を解決する世界だと思います。平和憲法を持つ日本がその先導役をはたせたらいいのにと強く思う。

人間愛

鈴木 めぐみ

「つづり方兄妹」－理論社－より作文の一部分を紹介します。

「全く大人と言うものは、こうして一個の生命の生死をさかいにおいてすら、まず自分を中心としての『ものの考え方』をする。そして、全く商売上の取引き同然の言葉をかかわし合う。何故、一切を捨てて、万策をつくして、一つの生命の生きようとする自由と権利とを守ってやるために相談しあわなかったか。それは『愛』がたりないためだ。いや、でなくて、その愛が何かによって曇らされているためなのだ。利己、体面、それに義理とか人情とか－大人の世渡りの要領としてのごつごう主義の考え方によって。その考えは暴力だ。小児の自由も平等も、言いたいことも、生きることも認めぬ暴力だ。こんな連中の前に、子供は平等でもなければ、自由でもない。ぼくらの憲法の中でも一番大事な言葉『基本的人権』と言う言葉は『すべてを捨てて人を愛せよ』と言う言葉である。ぼくは今度の経験からはっきりとこれを知った。そしてぼくは、ぼくらの憲法が、単に国家とか、一つの政治組織を守る方便的なものではなくて、人間愛の象徴であることもはっきりと感じとった。ぼくは曇りのない愛を胸にいだき、憲法をしっかり守ってはずかしくない道を一步一步歩んで行きたいと思う」（大阪法務局「基本的人権に関する作文」優秀賞）

これは1957年（昭32年）中学3年生の野上丹治さんの作文の一部分です。弟の発病・死に対して、医者や大人のおさなりな対応に深い悲しみ、怒りを表しながら憲法への強い思い、特に「基本的人権」は「すべてを捨てて人を愛せよ」との言葉だと言っている。私はこの新鮮な言葉に目をみはる思いです。私と同年代の方だと思うが、私の中3時代はどうだったのかと考えたりする。「憲法」と言えばこの「つづり方兄妹」を思い、彼の作文を読み返している。

（尚、「つづり方兄妹」は枚方の香里ヶ丘の3人兄妹の作文集で同名の映画にもなった。本は絶版となったので、読みたい方は図書館か鈴木まで）

憲法記念日に寄せて

松下 駿三

戦争関連諸法が白日の下で貫徹されようとしております。憲法を無力化し、なるほどこういう風に戦争は準備されるのかを、目の当たりにしながら安倍政権や権力者が、抑止「勢力」を自認していた公明をも巻き込みながら進められて来ました。

スケジュールはこうだ。与党自民・公明は協議の合意（3・20）を受けて4月中に「安全保障法」を作成し、アメリカ訪問の手土産として日米ガイドライン策定の枠内においてその骨子はすでに決まっております、その範囲内での「安全保障法」であり、これを5月14日に国会上程し、会期中（6月末）に可決という、まさにアメリカの世界戦略の一環としての日本の「戦争法」に他なりません。

安倍政権にとって、今国会はそのための法手続の場に過ぎません。

全世界に向けて日本を「戦争する国」へと大転換させる大改悪法なのです。

すなわち、自衛隊法と武力攻撃事態法を改定し、周辺事態法を「重要影響事態法」と改定。「テロ特措法」や「イラク特措法」を自衛隊派兵の「恒久法」として新設。

さらに「PKO協立法」を改定し、武器使用の権限を拡大し、「駆けつけ警護」も可能とするものです。すでに秘密保護法や集団的自衛権行使を閣議決定で決め、「戦争する国」にふさわしい国民を育成するために、労働組合の産業報国化（経営者）やとりわけ次世代の日本を担う教育の場において指導要領改悪をはじめ教科書国定化や道徳の教科化、その担い手である教員への徹底した管理化・従順化と、一方での追放攻撃が現に進行しています。論議を国会内に止めることなく、すべての議員は下野し、広範な統一戦線を形成し、論議を深め阻止し得るための運動を今こそ創り出しましょう。

憲法改正は管理社会への道筋

大田 英俊

先日 28 日に自民党が憲法改正の必要性を訴えるために発表したマンガ「ほのぼの一家の憲法改正ってなあに？」を読んでみた。憲法に地震等の緊急事態に関する規定がない事、憲法の基本的人権は国際人権規約に記されている人権の考え方より解釈が拡大されているため、人権擁護を盾に犯罪行為を取り締まる規定が書かれていない事等が描かれ、マンガの最後は、憲法の在り方を「みんなで考えよう！」と締めくくられている。現政権の意図する憲法改正は国家と国民との関係性の再構築＝国民主権の撤廃であり、国民に考えもらっては困るという国家権力の本音を暗に裏付けているような締めくくり方。

より強権的な国家の構築を目論む中でのマイナンバー制度の導入や、政府によるメディア統制を布石とし、管理・統制社会に向けての動きがますます本格化してきていることは非常に危ない。現政権による憲法改正の動きを注視し、「人権」とは何かを改めて考えたい。

憲法記念日に思う

H・I

好きな言葉があります。「人類が所有し得る最大の力は非暴力である。それは人間の知能が作り上げた最強の破壊兵器より強い」＜ガンジー＞

嘘も 100 回言ったら「真実」になると言われています。政府は危ない危ないと私達にわざと不安をあおらせていないでしょうか？ 今、戦争のできる国にする必要が本当にあるのでしょうか？ 戦争は勝っても負けても生き地獄です。私は命を大切に社会を切望します。

憲法記念日にガンジーの言葉をかみしめ、世界に誇る憲法 9 条を死守したい気持ちを新たにしています。未来の子供たちのためにも諦めることなく、安倍首相の暴走にストップの声を上げていきましょう。



枚方からの発信が求められている 大田 幸世

46 人が立候補した枚方市議選。そのうち「戦争NO」「戦争立法ストップ」と公約に掲げたのは、7 人だけ。安倍政権は、統一地方選挙を勝利し、安保法制づくりに勢いをつけようとしているにも関わらず、「戦争立法は国政の問題」という逃げの姿勢の議員のいかに多いことか。国と地方は対等なのに。市民の命や生活を守ることは、責任。

枚方で育った子供達も自衛隊員になっている。自衛隊を世界中に武器を持って行かせてはいけない。他国の人に武器を突きつけ人殺しをさせてはいけない。人殺しの手伝いをさせてはいけない。自衛隊は、他国の軍隊と共同演習などしてはいけない……。

平和憲法は、大きな宝。連休明けに「戦争法制」が一括提出される動き。正念場だ！

五行歌

手塚美子

議員の責任
憲法まもる
命どう宝
九条こそは
今こそ宝

地方自治の弱体化が心配！

駒木根 淑子

4月26日の枚方市議会選挙の結果、「市民の会」は現職維持にこぎつけたとほっとした一方、第18回統一地方選挙の全国結果をみて、心配になった。無投票当選が続出したという。中には、定数割れの議会もあったようだ。道府県議選では全選挙区の3分の1、総定数の22%が無投票当選、市議選では15市の計246人が無投票で当選し、総定数に占める割合は過去最高の3,6%という。これでは市民に身近な問題から国政につながる問題まで、活発に論議できないのではないかな？

一方、連休明けには「戦時国際法」とか「国際人道法」とよばれる「戦争法」が国会に上程されようとしている。戦争することを大前提として、戦闘行為を制限する規定である。国政と地方政治を分けて考えるのはやめよう。市民に十分な情報が公開され、同時に活発な論議の出来る地方自治こそ、戦争への歯止め・平和の礎ではないだろうか。

枚方版『阿呆陀羅経』

詠み人不詳

市民の声は聞こえない 反対市民とは会いたくない 聞きたくないし見たくもない
コミュニティ会長にしか知らせない 議会与党としか話さない 寄付者とは馬が合わない
しかし有難い御寄付は断らない 絵画の値打ち関心ない どんな絵なのか興味がない
美術館に茶室？問題ない 自然は要らない 緑も要らない 住民の憩いの場要らない
子どもの遊び場要らない 動物・昆虫の棲み処も要らない 便が悪い立地でも気にならない
観賞に来るだろうかと心配しない 入場者数など頭がない 赤字の運営気にしない
年六千万の持ち出しオレの金じゃない 30年持つかどうかオレ知らない 後がどうなるか知ったことじゃない 気にならないし気にしない！

図書館要らない 公民館も要らない 市民が知恵をつける施設は全部要らない 指定
管理者の利点？説明できない 市の職員を増やしたくない 直営する金使いたくない
オレの金でなくても出したくない 民営以外考えられない 誰が運営しても気にしない
ツ〇ヤであってもなくてもオレ知らない 民営にして後がどうなるか知ったことじゃない
利用者が減ってもオレの責任じゃない 閑古鳥が鳴いても聞こえない 蜘蛛の巣張
っても見えはしない 廃館になってもオレ知らない 後がどうなるか知ったことじゃない
気にならないし気にしない！

原発被害はよく知らない 直ちに健康影響ない 事故現場のことなど知ったことじゃ
ない 放射能の拡散知識ない 被害の拡大関心ない 汚染水漏れオレ関係ない 福島は
福島で枚方ではない 近くもない 子や孫が住んでいるわけでもない 福島県民のこと
など知ったことじゃない オレは福島の〇〇じゃない やってみたいとも思わない や
れるとも思わない 再稼働反対の気持ちがわからない 知りたいとも思わない 危険か
どうかわからない 事故？その時にならなきゃわからない 関係ないことに口出さない
「国・事業者で適切に判断される」以外の言葉は使わない 若狭で事故が起きてオレ
知らない 後がどうなるか知ったことじゃない 気にならないし気にしない！

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 **黒田 薫** (平和都市ひらかたを考える市民の会)
家高 憲三 (元教育長) **鈴木めぐみ** (親と子のリズム遊び講師)
奥村 秀二 (弁護士) **おおた幸世** (枚方市平和無防備条例を実現する会)
事務局長 **手塚 隆寛** (枚方市会議員)

〒573-1193 枚方市禁野本町 1-5-15-106 市民の広場 “ひこばえ”

Tel & Fax 072-849-1545